

保育おおさか

平成20年6月1日 第394号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

厳しい橋下改革に適切な対応を

地域貢献事業は「準備」から「推進」へ
中央主導の保育制度改革にも注視必要

新年度早々に橋下知事の号令一下、財政再建プログラム試案なるものが出て、府管の園が現在受けている補助金が本年度は10%削減、来年度からはゼロ!との発表がありました。

部会ではただちに府管担当の副部会長が集まり対応策を協議、育児相談の件数を各市に急遽問い合わせ、4月30日連休の狭間に大阪府議団民間社会福祉施設振興議員連盟の仲介で橋下知事と面談。嶋田・大西副部会長から現状説明しましたが、大変厳しい反応が返ってきました。

今、橋下知事は、1100億円(削減)ありき!で、理解はできるが、お金がない、子どもたちにこの借金を負わせるのか?今後、府議会の場で議論をしていくとの回答です。

級地格差や子育て支援保育士予算もほとんどが人件費。数百万の減収となれば、級地の低い地域の保育園は職員の給料を下げるなどの対応を迫られます。

橋下知事には180万人の人の支持があり、知事に反することを言うとは凄いいバッシングが起きると

危惧する声もありますが、現場の切実な要望を訴えていきたいと思います。

本年度の部会事業としては、昨年度より取り組んでおります、地域貢献事業のさらなる推進に取り組むため、委員会名を「準備」から「推進」と変え、保育園が地域の核となるべく会員の皆様のご協力をお願いいたします。

中央では保育制度改革が進められています。

「次世代育成支援のための新たな制度体系の設計に向けた基本的考え方」(素案)が示され、厚生労働省・担当局長に各保育団体が呼び出され説明を受けました。

注目点として①すべての子どもの健やかな育ち②誰でもどこでも必要な

支援を選択し利用できる(直接契約の導入?)③認可保育所の拡充を基本としつつ、多様な主体が働き方やニーズに対応した多様なサービスを提供する仕組みが必要(認可のみではない)④保育士などの処遇は重要であり、質の向上に向けた取り組み方策や専門職員の配置をあげています。

5月14日の全国保育協議会総会で厚生労働省の義本保育課長は、これをもとに各保育団体とともに協議を進めながら良い形の制度を創って行きたいとされているが、財源問題や経済界からの保育産業の進出に歯止めをかけられるのか、動きを注視する必要があります。

(保育部会長 永野治男)

おめでとうございます

子どもたちから夢と元気をいただき続けてきました。更に身に余る受章は感謝の限りです。これから子どもたちの幸せな未来を願ひ頑張ります。



春の叙勲
瑞宝単光章
阿瀬 みな子
(旭丘まぶね保育園施設長)



「モンスタール」が現れた!といつても昔よく遊んだテレビゲームで

はない。当園に現実として現れた、いわゆる「モンスタールペアレンツ」です。噂に聞いてはいましたが、その影響力は凄まじい。そのモンスタールペアレンツに対応している保育士チームはありとあらゆるアイテムを駆使したもの、玉砕され、幾度となく涙を吞みました。そしてモンスタールはその究極の必殺技「わが子を主役にしてビーム!!!」を放ちましたが果たせず、ついに生活発表会下タキャン、という結果となってしまいました。

親の事情で約4か月間にわたる練習の成果を披露できなかったその子は翌週、私たちの心配をよそに優しい表情で逆に私たちを氣遣ってくれました。それだけに、その小さな笑顔は私たちの胸を最後まで苦しめました。小学校へ上がったばかりの彼ですが、その心は大きかった。(N・M)



「やった」の歓喜の声があがる

当園は枚方市東部に位置しています。東に生駒山を仰ぎ、近くに枚方市の史跡王仁公園。古い伝統と歴史に恵まれ、四季折々の自然の中で子どもたちの育成に取り組む条件のそろった環境にあります。現在は0歳児から5歳児まで126名の園児が在園しています。

私たちは「生命を大切に育てる子ども」「自分で考え、行動していく子ども」「人の気もちがわかる子ども」を育てることを目標にしています。その目標をめざし、「食育」という領域を「心を育てること」、そして「仲間をつくること」という観点からとらえ保育計画を組み立てています。その一環として18年度に取り組んだのが「みのり」がテーマのお米づくり。そこから広がる活動の中でさまざまな驚きや発見があり喜びがありました。

「わーッ」という気持ちの友だちといっしょに共有し、そばにいつも友だちを感じながらの経験が大きな「みのり」だったと思います。

19年度には「感じる心をふくらませ、共感する気持ち」を育てようという目標を掲げ、秋から春にかけて「感じる心」を学んだ夏が終わる季節は秋へ。そして運動会が

「なんやこれ？くさみたいやな」「あ！トマトのにおいがする」。毎日水やりをし実がなるのを楽しみに育てていたある日、緑色からやっとな赤い実に色づき「やったー」と喜び子どもたち。ところが、せっかくのトマトは下が真っ黒に腐る病気になるてしまいました。

「なんでやる…まっくらやん」。でもしばらくすると、やっとな真っ赤なトマトができました。再び上がる「やったー」の声。トマトとすこし仲良くなれた、夏。



24

「津田保育園」一枚方市 シリーズ **食育** 心の「みのり」共感を育てる —お米作りやトマト栽培を実践



親子クッキング



白石教授

「なんやこれ？くさみたいやな」「あ！トマトのにおいがする」。毎日水やりをし実がなるのを楽しみに育てていたある日、緑色からやっとな赤い実に色づき「やったー」と喜び子どもたち。ところが、せっかくのトマトは下が真っ黒に腐る病気になるてしまいました。

「なんでやる…まっくらやん」。でもしばらくすると、やっとな真っ赤なトマトができました。再び上がる「やったー」の声。トマトとすこし仲良くなれた、夏。

「なんやこれ？くさみたいやな」「あ！トマトのにおいがする」。毎日水やりをし実がなるのを楽しみに育てていたある日、緑色からやっとな赤い実に色づき「やったー」と喜び子どもたち。ところが、せっかくのトマトは下が真っ黒に腐る病気になるてしまいました。

「なんでやる…まっくらやん」。でもしばらくすると、やっとな真っ赤なトマトができました。再び上がる「やったー」の声。トマトとすこし仲良くなれた、夏。

やってきました。「まかせたよ」「がんばるね」の気持ちでバトンをつなぐリレー。メンバーの順番は子どもたちが話しあって決めたかどうか。じっくり話しあう子どもたち。自分の顔と名前を書き「みんなのバトン」も作りました。当日、ころんでもガマンして起きあがり走る姿に胸が熱くなりました。お米やトマトと一緒に作った仲間意識、共感の心が子どもたちを強くしたように思われてなりません。

四季折々の「みのり」に感謝し、仲間を作り、食を通して親子の関係を作っていくこと。そんな子どもたちを取り巻く私たち自身が、その「みのり」に気づき感謝することのできる大人でありたい、そう思っています。

「なんやこれ？くさみたいやな」「あ！トマトのにおいがする」。毎日水やりをし実がなるのを楽しみに育てていたある日、緑色からやっとな赤い実に色づき「やったー」と喜び子どもたち。ところが、せっかくのトマトは下が真っ黒に腐る病気になるてしまいました。

子どもの睡眠・食・運動を 重点把握 — 育児相談初任者研修



114名が参加

育児相談初任者研修が5月15日、「子どもの健やかな育ちと生活臨床」をテーマに武庫川女子大学大学院臨床教育学研究課、白石大介教授を講師に行われ、豊富な事例をもとに、保護者から育児相談を受ける際の着眼点などについて説明されました。

食育が叫ばれ、成長過程で食が非常に大切であるとの認識が定着しつつありますが、最も重要なのは「睡眠」と指摘されました。「早起き」によって「身体が活動的になる」脳内物質が多く分泌され活動を進め、「早寝」は「精神を安定させる」物質が分泌され、情緒安定へつながる。ひと口に「早寝早起き」といいますが、「早起き早寝」が必要ということですが、次に大切なのはやはり「食」です。ファストフードの進出に伴い、現代型栄養失調という状態に陥り、「キレる」「むかつく」といった今の子ども特有

の性質を作り出す大きな要因となっているようです。

第三には「運動」が大切。十分体を動かしていない子が目立ち、それが原因で低体温化をもたらす、アレルギー疾患・肥満・生活習慣病を引き起こす悪循環に陥っている。育児相談では問題点だけでなく、睡眠・食・運動など子どもの背景に何が隠れているのか把握することが必要です。

成長・発達過程で、この点を根底に見据え、保育者も余裕を持ち相談業務に当たらなければならぬと認識させられました。（編集委員 J・F）

ブロックだより

堺

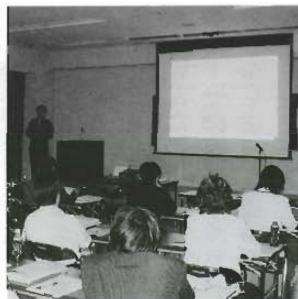
障がい児と その家族支援を

―民間保育園連盟園長研修会―

堺市民間保育園連盟園長研修会が5月20日、梅文化会館で行われ、「障がい児保育の現状と課題」をテーマに永井利三郎・大阪大学教授が講演され

ました。

永井教授はまず発達障がい児の支援の流れについてNPO法人アスペ・エルの会を紹介、「発達



障がいのある人たちのことを正しく理解し、困っていることをしっかりと把握すること、その方々がよりよい生活をする事ができる。他者のことを考えられる世の中は、すべての人にとってもよりよい世の中になる」と述べられました。

また、障がいのある子どもは年齢別特徴を説明、支援の基本として、「嫌がることは、無理をさせないようにする」「人とのやりとりで安心感を育てる」「自発的なコミュニ

泉州

音で育てよう 幼児の感性

―民間保育士会総会で記念講演―

泉州民間保育士会の総会が5月17日に行われ、約380名が参加。「豊かな心を育てよう・音で育つ幼児の感性」をテーマに全日本リコーダー教育研究所顧問・とつとりわらべ館唱歌教室教師の原田彰氏の記念講演が行われました。

鍵盤ハーモニカを手にした原田氏の軽快な演奏から始まり、みんなで「ちようちよ」を合奏、和気藹々とした雰囲気になりました。

原田氏は「音楽は数学のように答えはなく、自

然「アラレちゃん」と言えば、そうあの方です。

その昔？調研「夜の部」では活躍されたそうです。青年会議所・PTAなど

地域でのお付き合いが多くなり、また、園舎建て替えて

多忙のため、谷町七丁目付近で見かけることがめっきり少なくなっていました。が、ブロック内の若手への実務の引き継ぎ、世代交代が

あの人 この人

すすみ、昨年あたりからブロック代表の一人として、保育部会常任委員会や対外的なお付き合いに顔を出していただけたようになりました。

先日、民生委員児童委員としての永年勤続表彰を受けられ、今後益々の活躍が期待されていますが、昔のような身体に負担をかける無茶はしないようにして欲しいものです。ねえ、斉藤先生！

(天野山保育園H・N)

保育園をたずねて

362

守口市

来迎寺学園

子どもはみんな主役

来迎寺学園は今年、創立40周年を迎える定員90名の保育園です。守口市の北部に位置し、淀川や阪神高速守口線が近くに

あります。未知の可能性を秘めた園児たちに、多くの生活体験や四季の伝統的な行事を体験させることを大切にされています。また、鼓笛隊や発表会に参加することによって、どの子



も主役を目指す保育を心がけておられるようです。同園は待機児童解消のため、平成19年に定員を

増やされましたが、これに伴う保育室の増改築を機に、近年注目されている水や空気の安全性確保(水質改善・オゾン殺菌の導入)、乳児がのびのびと遊べる空間の確保(2階のベランダ)に取り組まれました。

0才児も含め、安全で暖かく穏やかな太陽の下、保育士さんと楽しく過ごす時間を大事にされています。

(編集委員 J・F)

保育士会



発行所
大阪府中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会

保育部 会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001

発行人 男 勲
永野 治
宮 武

分も楽しめ人も楽しませることができると話され、また、幼児期の音への関心・音楽への関心は耳からと遊びから持たせることが大切で、自然に耳に入ってくるのがよいと指摘されました。音楽に合わせて手や指や体を動かすことが右脳と左脳を

(双葉児童園 R・A)